

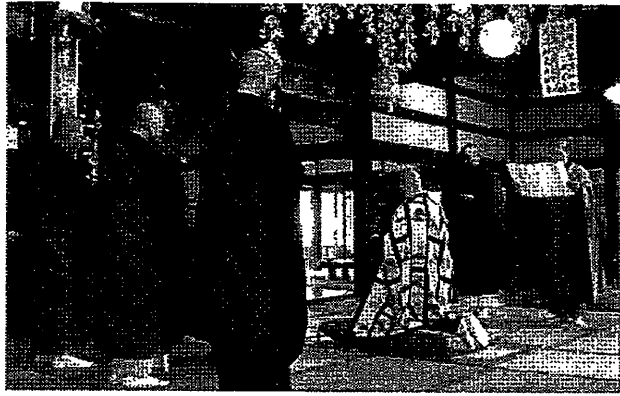
龍 声

東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊
 発行編集所 〒959-1502
 新潟県南蒲原郡田上町
 曹洞宗 東龍寺
 電話 (0256) 57-3395
 FAX (0256) 57-2174
 ホームページ
<http://www.ginzado.ne.jp/ryusei/>
 E-mail
ryusei@ginzado.ne.jp

つながりの中で、生かし生かされて

東龍寺住職 渡辺 宣昭



眼蔵会中日、仏誣会法要 5月16日

お寺では、毎年正月三日の朝から、お檀家の一年間のご無事を三箇日祈願したお札をお配りします。五日、葬儀ができ遅れ気味でしたので、おにぎりを持ち、お昼時のお宅で少し邪魔し、食べさせて頂こうと思いついておりました。矢代田の田巻晴雅（はるお）さん宅に伺うと、インターホンから返事が来て、自動ドアで玄関が開きました。彼は平成十六年五月四日に脳梗塞で倒れ、翌朝救急車で入院、右半身に麻痺が残りましたが、一昨年暮れにバリアフリーの住宅を造り現在一人暮らしをしています。

■眼蔵会法要案内

本年は第九回眼蔵会を五月二十一日(木)・二十三日(土)に行います。駒澤大学仏教学部教授・角田泰隆師より、「受戒」の巻を御提唱いただきます。是非ご参加ご修行ください。

「おめでとうございます。お礼です。」と申し上げると「これからお布施をお包みますから。一寸上がってお待ちください。」と言われます。これは渡りに船と上がって、おにぎりを食べさせてもらいました。

田巻さんはお包みを私にくださると、「今日が丁度入院して四年八ヶ月の命日なんです。だんだん元氣になつて半年前から家の近所を散歩初めて、最初は二時間かかったのが、今では、一時間四十分で歩けるようになりました。」と、うれしそうに話された後、

「散歩の途中に、小学校時代の先生がおられて、時々お会いするんです。」
 小生思わず、「堀川英子先生でしょう！その方は、私の一年生の担任だったんですよ。」(田巻さんは田上小学校で小生の五年先輩。)

「私は担任ではなかったけれど、兄をよく知っておられたので、話が弾むようになりました。私が賀状を差し上げたら、先生からお返事を頂きましたので見てください。」

賀状には「早々に賀状をいただき有難うございました。晴雅さん、賀状は左手で書いたの？あなたの真面目なお人柄がよくわかります！と感心しました。書は人なり」といいますから……。「生かさせてもらっていることに感謝」奥深い言葉ですね。私も毎日の生き方に役立てていきたいと思えます。同時代、田上小学校で同じ空気を吸って来たもの同志これからもよろしく願います。」

そして、少し書体が違う字で「あなたの頑張る姿を見て元氣をもらっています。」と書いてありました。

「これはご主人の字ですね」と、田巻さん。
 身体に障害を持ちながら、一人暮らしをしている田巻さんにとって、先生ご夫婦の真心のこもった言葉は、どれほど大きな力付けになったことでしょうか。うれしそうに語られる田巻さんの姿を見て、つくづくそう感じました。

道元禪師は真心のこもった言葉を愛語(あいご)と申され、「愛語は愛心(あいしん)よりおこる、愛心は慈心(じしん)を種子(しゅうじ)とせり。」とお示しになりました。愛語は、人

を愛することからはじまります。人を愛するとは、無限の縁の中で支え支えられているお互いを自覚し、慈しみあう心を根本とします。愛語をおかけになった堀川先生夫妻も田巻さんから素晴らしい生きる力を戴いておられたのです。そして、それを聞いた小生も「ああ、素晴らしい縁をいただいたなあ。今年一年多くの方との出会いを大切に頑張っていきましょう」という力を戴きました。

どうか、皆さんも、つながりの中で生きていく自分を自覚し、思いやりのある言葉「愛語」を実践して、豊かな潤いのある日送りをされますよう心より念じております。

合 掌

絆

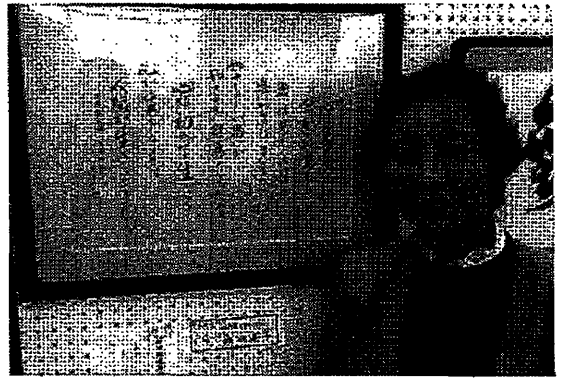
新潟市秋葉区矢代田 元田上小学校教諭 堀川 英子

眼蔵会の中日、仏誕会(ぶつたんえ)：お釈迦様の御誕生を祝う法要)が始まりました。荘厳な雰囲気の中で鐘の音と共に紫の衣に身を包まれた導師様が入堂されました。その崇高で気品溢れるお姿は、はっと息をのむ程の美しさでした。ご本尊様に向かわれ、普同三拝されている導師様に接した時、私は田上小学校一年生の時の宣昭様を思い出しました。

夏休みの前、「お客様がいらっちゃった時、どんなご挨拶をしたらよいでしょう。」という話し合いに宣昭様は教壇の上に正座をされ、級友が見守る中、両手を八の字に構えて頭を下げ正しいお辞儀の仕方を示してくださいました。級友達は熱心にお辞儀の練習をし、実生活に役立つ生きた学習をすることができました。

私は宣昭様のお姿にご家庭での躰の良さが偲ばれとても感心いたしました。そして、加茂の幼稚園へ通われる宣昭様の送迎にお母様が幼い美佐子様の手を引かれ湯田上停留所でバスを待つていられた事が昨日の様に頭をよぎりました。

宣昭様は昭和五十六年三月三十日より、永平寺で厳しい仏道修行をされ、名僧と称えられる今日まで精進を続けて来られました。今日の導師様の気高いお姿をご覧になったお母様はどんなに嬉しく思っているかしらと察し、私は思わず目頭が熱くなりました。



宣昭様とは一年だけご一緒しただけで、あと次の年は別の級になりました。それから四十年あまり、年賀状や平成元年から続いている龍聲を読ませていただいたり、重子様との結婚式や眼蔵会へのお招きなどあたたかな縁が続いて参りました。昨年の研修会には山本能人師(平成十九年十二月、四十三歳で急逝)座右の銘より「心は見えないけれど、心づかいは見える。思いは見えないけれど、心づかいは見える。」(写真の書道作品)のことばを知り、感動しました。私は六人の孫達にもこの様な心づかいのできる人に育ってほしいという願いを込めて文言を清書しました。

東龍寺様との心のつながりが孫の代まで続くことに心から感謝し大切にしていきたいと思っております。

〜 住職より一言 〜

堀川先生は、昭和三十七年小生が小学校入学、最初の担任でした。恩師とは、有難いものです。いつも、温かく見守っていてくださるお手紙やお言葉が、どれほど、小生の支えになっていくことか。昨年の眼蔵会に、先生がご参加下さったので、寺報にご寄稿を御願いましたところ、この原稿を頂戴いたしました。私の巻頭言の思いと先生の思いが繋がっている不思議に驚かされました。特に、故山本能人師座右の銘を、研修会の法話の中で秋田県・国安大智師が紹介され、さらに先生が感銘を受けられたことは、亡き人の思いが生きている私たちに繋がっている絆を感じました。

また、巻頭言でも触れましたように先生はご縁のある多くの方々に真心を込めて接して下さる方です。これからも地域の皆さんの心のより所となられ、益々お元気で過ごされますよう願っております。

西の果て山口より仏縁に導かれて

山口県 常寂光寺住職 山 縣 洋 典

「このお寺は生きています。」五月十四日、境内地に右足を一歩踏み入れた私は、そう感じました。これは決して私の貧粗な脳内の思考回路が、視覚的に判断したのではありません。私の脊髄が感じ、次の瞬間震えるように頸椎から海馬まで一気に登った感触でした。

私が、このお寺は生きていますという感触を得たのは、決して建造物が新しいことや大きいこと、あるいは仏具が揃っていること

からではありません。

当寺の御住職はもちろ

ん、檀信徒やご関係の

方々が常にこちらのお

寺の存在を心のどこか

に意識され、且つ大切に

思われていることに

起因しているに他なり

ません。そのまっすぐ

な気持ちこそが、お寺

とそれを取り巻く境内

地全てを、生き生きと

させているからだと思

います。

私は、こうした素晴

らしいお寺で、道元禅

師様の「正法眼蔵」を

角田老師のご講読で賜

ることができるとは、

大変幸せなことだと思

い、改めて引き締め講義に臨みました。

ご参加の方々は皆、大変熱心な態度で受講されており初日を終えませんでした。その後、何となく隣席の方にお聞きしますと、参加の方々は僧籍あるなし関係なく、この講義の時以外にも日々個々において、坐禅会等を通じて様々なご研鑽をされているとの事、誠に感服いたしました次第です。

角田老師のご講読は、随所に師であられた故酒井得元老師を髣髴させるような、妥協のない厳しい姿勢をお見受けいたしました。しかし、口調は、もの静かで聴く者の心に染み入るよう浅学非才な私にも、大変解りやすく丁寧でありました。ここに全てのご関係者の方々に対し、深く感謝の意を申し上げます。

帰路につく前、本堂の諸仏様と、坐禅堂に鎮座されておられる文殊菩薩様に次年度も尊い仏縁を賜り、再びこちらの地を踏むことができるようにこっそりお願いの三拝を致し、お寺を後にした次第です。ありがとうございました。

～ 住職より一言 ～

山縣師とは、昨年二月、永平寺での孝順会布教講習会でお会いしたのが縁で、はるばる、山口県から夜行バスを乗り継いで、拙寺眼蔵会にご参加くださいました。その道心の篤きことに敬意を表します。

現在は、永平寺の役寮（修行僧や参拝者を教え導く役）をお勤めですが、一層のご活躍を心より念じております。

曹洞宗 心の電話 〇二二〇一五〇八一七四〇

こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、三分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。二十四時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。

東龍寺住職も平成十八年度より、年二回担当しております。

本年度は、七月二十一日～二十七日、一月十九日～二十五日です。



眼蔵会飯台 左奥で浄人(給仕)をされている筆者

仏の救い、仏の力

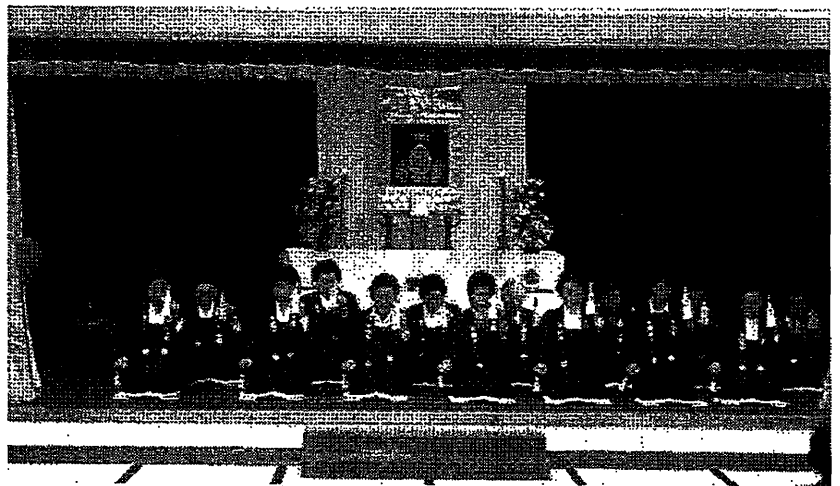
上野 小野澤 顕子

幼い頃からお寺参りや説教を聴く事が大好きでした。

梅花講のお誘いを受けて入構しました。御詠歌の練習は月二回で、御指導の先生は当寺院の奥様です。検定を受ける事数回、次の検定に向けて頑張っていた時、突然の不幸に合い呆然としてしまいました。息子の死でした。小学校二年生と四才の男の子を残して逝ってしまい、父親の死を知った二年生の孫は抱きついて震えて泣いていました。息子の友人も遺体を見ると同時に、名を呼び「どうしたんだ」の一言で黙りこみ、長時間離れることなく見詰めて泣いていました。二年生の孫は悲しみを画用紙いっぱい涙を描き、その中に「十一月一日」「父のいなくなつた日」「しんだ日」「しんだかなしい」「みんなかなしい」と書いて父親の胸上に添えて「お父ちゃん、良(う)しとら」にかかつていなかったね。みんなと三晩も一緒に居られるもんね」と二人の孫は父親の顔を撫でたり、ほっぺにチューをしたり、「お父ちゃん涙が出ていよ」と拭いたり、「細目が開いている、目が光っている、目が動いた、僕達を視ているんだ」と泣いていました。一生の別れであるが故に悲しみは深いものでした。私の検定日は息子の死亡月の末日でした。受ける事は供養の一つと考え挑戦し、無事合格することができました。

秩父三十四カ所観音霊場巡礼の旅に行った時の事、常に腰、股関節、膝痛で辛い日々を送っていたので、歩く事がとても不安でした。最初の巡礼所で杖を買ってバス乗り場までの片道に使用しただけでした。車中では痛みが和らいできたので杖無しで巡礼を続けました。三番札所から痛みも息子への悲しみも感じられないまま観音様の巡礼を無事に終る事が出来ました。体の痛み、息子への悲しみの心をお救いください、勇気をお授け下さった事を深く感謝しております。

息子の死から一年が過ぎない中、二度目の災難が……。実兄が意識不明のまま緊急入院の知らせでした。診断結果、覚悟をと伝え



五泉田上梅花流奉詠大会 11月21日 於・わか竹 筆者前列右より3番目

られた事です。見舞うと意識のない状況が続いていました。

私は、早速地元の才歩(さいかち) 地藏様に「大切な兄の命を何としてもお助け下さい」とお願いに通い続けました。子供好きの兄に小学三年生の孫が冷い手をしつかり握り、声をかけると僅かの反応を示し、孫は「手が温くなってきた。僕のパワーで治るかも。」と満足そうでした。何と、三週間足らずで点滴が外れ、日増しに快方に向い、立つ、歩く、話すのりハビリを受けられるまでに快方に向かい四十日で退院することが出来ました。この快方の早さに、担当医を初め周囲の人も驚きました。私は地藏様やご先祖様の力のお陰で兄が快方に向かったものと信じ感謝致しております。地藏様へは今も続けてお参りしております。ありがとうございました。

住職より一言

小野澤さんは、田上町の保育所創設より保育士としてお勤めになり、平成十年お辞めになると、東龍寺梅花講に入られました。以来、寺の行持や、法話会に熱心に参加しておられます。ご主人も信心篤く、ご両親の命日に月参りに伺って、世事の話をお聞きするのが楽しみです。

「田上本山講」に参加して

平成二十年六月十一日〜十三日

新潟市中央区信濃町 田中鶴子

春は花 夏ほととぎす 秋は月

冬雪さえて 冷(すず)しかりけり

大分前に長男の嫁と、この歌を詠んだ人は誰だったかと話していた時に、良寛様だったかな？ そのうちに調べてみよう等と考えていたのですが、「田上本山講」に初めて参加させて頂き、永平寺の坐禅修行の後、遠藤布教部長様の法話があり、大寫しの画面にばかりと前記の歌が出て、目を見張りました。何と、道元禅師様の読まれた歌だったのです。胸のつかえがすーっと消えました。

二泊三日の旅はお天気にも恵まれ、快適な旅でした。初日金沢兼六園の寄観亭でお昼を頂き加賀大乗寺へ。開祖の徹通義介禅師様は道元禅師様のおしえを受けられた方だとのこと、七百回御遠忌に参拝させて頂き有り難かったです。境内の静寂な佇まいに身の引き締まる思いが致しました。参道をそれた所に仏足の碑がひっそりと建っており、相樹林とある法堂前の参道両側には蓮の鉢がずらりと並べられ心が安らぎました。

大本山永平寺には二度ほど訪れた事がありますが、いつも走り走りでの度は宿坊でお泊り出来るとあって、四十畳ほどの大部屋に六十年も前の修学旅行を思い出しました。

入浴も食事も「無言の行」おいしいね等と話し合えたら何倍も



念記参忌遠御七百回禅師三世通徹永平山大本
目番2より前列前筆 日11月6年20平成 講上本山 田

美味しいだろうにと思うのは、私だけでしょか。就寝九時、翌朝暗いうちに振鈴の音に目覚め参禅者読経会場へしずしずと進み雲水の微動だにせぬ読経に胸を打たれました。順番に名前を読み上げられ先祖の供養もして頂きました。私は昨年(平成十九年)十月亡くなった夫の写真を持って行きました。老杉の中に建ち並ぶ七堂伽藍、傘松閣の天井の美しさ、全てが厳かな空気に包まれています。代々の貫首様を偲ぶ墳墓に宮崎禅師様のありし日のお姿を思い浮かべ乍ら、お参りさせて頂きました。

ここで修行気分を一新して高速道路を米原名古屋へと進み中部国際空港、紫峰人形美術館。南知多温泉郷では昨夜の夕食と一変してカラオケ大会で盛り上がりました。

最終日は名古屋城、徳川美術館を見学し、長野を経て北陸高速道を一歩新潟へ、優秀なドライバーに話題豊富なガイドさん、素晴らしい旅でした。

住職様が大変お世話になりました。三年後の總持寺行きを楽しみにしています。

住職より一言

田中さんは、田上町保明のお生まれで、ご長男は、住職の高校時代の同級生。そんなご縁から、一昨年ご主人を亡くされ東龍寺の檀家となられました。

とても、朗らかなご性格、また、俳句を趣味とされ、何事にも積極的に取り組まれるお姿には、敬服いたします。以前、新潟日報に連載された「天地人」のほとんどを切り抜いて保存されていたのには、ビックリ致しました。

毎月、お参りに上がり、色々なお話をお聞きするのが楽しみです。いつまでもお元気でいて下さいね。

秋の講演会

「おや、おや、おや」を公聴して

三条市 難波 秋夫

講師は愛知県岡崎市の浄土宗・西居院住職・廣中邦充老師のお話で感動して帰宅致しました。講演会という堅苦しい建前だけのものが多いですが、聴聞した私は笑いと涙と勇気と感動を頂きました。

最初に「皆さん、立って体操しましょう。」から、始まりさらに握手をし、私たちはリラックスしてお聞きすることができた。ご自身の家庭を話題に出しながら家庭の在り方を説いていく、夫婦でも顔を見ながら「ありがとう」と言えることが大切である。視覚障害の老夫婦との出会いとお世話をしながらのエピソード、カップ麺の食事を見て老夫婦に自分で作った料理を食べて貰おうと片道六十分の道のりを何年も運び続けたお話からは、自分に料理を作る仕事を与えてくれ、何かしてやりたい楽しみ、喜びの心、次は次はと思いうもう一歩の前進を老夫婦から教えてもらった。



講演中の廣中邦充老師

お寺では下は二歳から上は大学生まで十五名で一緒に生活して学校へ通っている。子供は悪くない。ほとんど家庭に問題があり、子供に影響を与え引きこもり・不登校・家出などが起きている。特に夫婦仲が大きな要素を持つ。夫婦とは徳のレベルが一緒で正しく明るく間違ったことをしない人、その様な家庭からは

問題は起きない。祖父・祖母・兄弟・姉妹の徳の違い、家庭の徳の違いでも子供に与える影響がある。子供達は後ろ楯がなく不安なのである。

お寺では老師がいつでも後ろ楯になつてくれるという心の拠り所がある。又、三步の距離を保つことが大切である。夫婦・子供・仏様等々の距離を取る。三步の心とは寄り添う心、寄り添う心とはいっても一緒にいる、何かあれば後ろ楯になつてくれる安心の心。

選ばれて人間として生まれてきたのだから、喜びの心を持ち、少しでも人様の役に立つ人間に、人様の幸せを願うこと。

今回の講演で我が家も「おや、おや、おや」と言われないように対話のある親、後ろ楯になれる親、存在感のある親、仏様に心のこもつたお参りのできる家族になるための糧にして行きたいと思えます。最後にお誘いして下さった方丈様に感謝致します。

住職より一言

難波さんは、原ヶ崎・難波伊之助家のお生まれです。一昨年秋季に大切なご長男を突然の病で、お亡くしになり、東龍寺を菩提寺として下さいました。察するに余りある悲しみの中で、亡き愛息へのご供養のお心を深くお持ちくださいました。

「私が苦しみから救われるのではなく、苦しみが私を救うのです」(尻枝正行神父)。とても、心に響いたお示しですが、御信心の力で乗り越えていってほしいと願っております。



前列手前から3人目筆者、二人目奥様

今、思うこと

横場新田 齊藤美穂子



家族旅行 平成19年秋、上野動物園にて、筆者：右より三番目

東龍寺での塾にお世話になってから、約八年が経ちました。中学生だった頃のことがつい最近のように感じます。あの頃は、大変お世話になりました。

当時の思い出と言え、なかなか思い出せませんが、確かに思うことは、「塾に通って、よかったです」ということです。勉強ではとても優しく、時には厳しく教えて下さいました。また、友人といろんな話をしたり。学校とは少し違った雰囲気の中で貴

重な時間を過ごすことができました。

現在、私は二十三歳になり、もうすぐ社会人四年目となります。ある日から夢見ていた幼稚園教諭として、日々かわい子どもたちに囲まれています。まさか自分が「先生」と呼ばれるようになるとは思ってもみませんでした。子どもたちからは教えてもらうことばかりです。「先生、どうして○○なの？」の質問に息詰まる私。大人になり視野が狭くなっていたことを気付かせてくれました。子どもたちと一緒に泣いたり笑ったり怒ったりし

て、共に成長していけたらなあと感じています。毎日忙しく辛いこともありすが、とても充実しています。

悲しい事件があったり暗い世の中で、子どもたちの瞳はいつもキラキラと輝き、まっすぐと前だけを見つめています。そんな子どもたちに、大人である私たちが少しでも明るい未来を与えてあげたいですね。

住職より一言

齊藤美穂子さん(平成十年度中学入学)は、三姉妹の末娘で、ご両親が住職の小学校時代の同級生。そんなご縁から、長女・智子さん(平成三年度中学入学)、次女・純子さん(平成六年度中学入学)と、三人とも、三年間東龍寺へ、勉強に通ってくれました。羨のきちつとした勉強に部活(バレーボール)に真剣に取り組むお嬢さん達でした。

現在、皆素敵な伴侶と巡り会い、幸せそうで何よりです。しっかりとした家庭をつくり、まわりの社会を明るくして欲しいと願っています。

お知らせ

来年、五月三十日(日)〜六月三日(木)の五日間、新潟県曹洞宗青年会三十周年記念事業の「授戒会(じゅかいえ)」が、東龍寺を会場に厳修されることになりました。

授戒会とは、「仏の教えに目覚め、その教えを實踐する法要」で、宗門最高の儀式です。この法要で、仏の教えをお授け下さる「戒師」を大本山永平寺貫首・福山諦法大禪師猊下がお勤めになられます。

難値難遇の勝縁ですので、多くの檀信徒の皆様のご参加を募りたく、追ってご案内申し上げます。

また、東龍寺の開山・般山祖吉大和尚(一五六四年遷化)が、平成二十五年に四百五十回忌を迎えます。三年早まりますが、この授戒会の中で、報恩の法要もお勤め出来ればと願っております。

【東龍寺年中行持】

- 七月 金毘羅大祭
 - 八月 一日 うらばん会(盆参)
 - 八月廿四日 水子地藏尊並びに観音様大祭
 - 九月廿三日 秋のお彼岸会 (お彼岸の中日)
 - 十月 十日 常齋米法要
 - 十月 十日 除夜祭(除夜の鐘)
 - 十月 十日 大般若祈禱会
 - 一月 一日 寺年始(近隣の檀家)
 - 一月 二日 寺年始(遠方の檀家)
 - 三月廿一日 春のお彼岸会 (お彼岸の中日)
- 【平成二十年度事業、行持報告】
- 一、五月十五日(木)～十七日(土)に、駒沢大学教授角田泰隆師を講師にお招きし、第八回眼蔵会を講本「諸悪莫作」の巻で、開催した。
 - 一、六月十一日(水)～十三日(金)に、田上本山講「大本山永平寺参拝と南知多半島の旅」を行った。
 - 一、七月三日、第十九回金毘羅大祭を修行。その後、参道の階段等の整備を行った。
 - 一、七月六日(日)～八日(火)に、「秩父三十四ヶ所観音霊場巡拝」の旅を行った。
 - 一、十月九日～十日、東龍寺を会場に宗侶対象の北信越管区布教講習会が行われ、常齋米法要を十二日に行った。
 - 一、十月十三日(月)午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、愛知県浄土宗・西居院住職・

廣中邦充老師をお招きし、第十三回秋の講演会を行った。

【参禅の報告】

- 一、四月十一日、村上市西法寺写経会一行十五名参禅
 - 一、四月十八日「第二八回卯辰会の集い」(代表三条市・内山荘)十八名参禅。
 - 一、六月四日、新潟日報「癒し坐禅」を取材。十九日夕刊に載る。
 - 一、六月六日、田上町須佐製作所一行十名参禅。
 - 一、七月二六日、東京都「さらく会」十八名参禅。
 - 一、七月二九日、新潟第四宗務所十回四教区護持会・四十名参禅。
 - 一、八月八日、燕市・長所一行・七名、法話並びに坐禅体験。
 - 一、八月二十日、田上町社会福祉協議会「ボランティアアチャレンジスクール」十名坐禅体験。
 - 一、八月二九日、三条市倫理法人会坐禅研修。十一名。
 - 一、十月十九日、新津市観音寺参禅会「明心会」十名参禅。
 - 一、十月二三日、新潟経営大学和田ゼミ一行十四名、坐禅研修。
 - 一、十一月十九日、田上ライオンズクラブ坐禅例会。十二名。
- 【平成二十一年度事業、行持案内】
- 一、五月二十一日(木)～二十三日(土)に、駒沢大学教授角田泰隆師を講師にお招きし、第九回眼蔵会を講本「受戒」の巻で、開催する。
 - 一、六月十四日(日)～十六日(火)に、

「越後三十三ヶ所観音巡拝の旅(二回の内、一回目)」を行う。

【月例加茂法話会】

- 一、毎月一回、夜、加茂市穀町商店街振興組合二階を貸り、幹事平山ヨイ氏らの協力により、僧侶八名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。

【月例坐禅会の御案内】

- 一、月例坐禅会を毎月第二土曜日夜七時半より行っています。お気軽にご参加ください。

【心の癒し坐禅体験】

- 一、毎週水曜、木曜(祭日は除く)の午後四時から、約一時間、湯田上温泉宿泊者に坐禅修行体験をしていただいております。

【梅花講のお知らせ】

- 一、梅花講では、毎月七日と、二十二日の二回練習をおこなっています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。

【その他の照光殿での催し】

- 一、大正琴のお稽古を先生をお招きし、有志で行っております。興味のある方、のぞいてみませんか。

【お寺よりの御礼とお願ひ】

- 一、三条・渡辺喜彦氏より、椅子八十脚・椅子用机二十台、並びに

水子地藏・観音様 永代供養墓のお唱え文句看板を御寄付戴きました。今年はお盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解とご協力の程、お願いいたします。

- 【お盆前住職】新潟・亀田・三条・巻・燕・白根・長岡
- 【十三日住職】新潟・中山・赤浜・笠巻・三ツ屋・三枚湯・市ノ瀬
- 【東岸寺若様】覚路津
- 【お盆中住職】川之下・原ヶ崎・下吉田・鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田新田・後藤・曾根・横場・加茂地区
- 【光明寺様】本田上・山崎・山田・湯古屋・羽生田・川船河
- 【少林寺様】上野
- 【少林寺若様】湯川・谷・中店

編集後記

寺報二十一号を発刊するに当たり、山縣洋典師、堀川英子先生、小野澤顯子氏、田中鶴子氏、難波秋夫氏、斉藤美穂子さんより、ご寄稿を賜り有難うございました。今後も皆様のご寄稿をお待ちしております。

小生、今年のNHK大河ドラマ「天地人」をととても身近に感じながら、見ております。主人公・直江兼続(一五六〇～一六一九)がお生まれになった四年後に、東龍寺の御開山は亡くなり、パイイや鈴木演じる上杉家家臣・甘糟景継は、一五八〇年頃、東龍寺を山懐に抱く護摩堂城主をお勤めになられたからです。

合掌